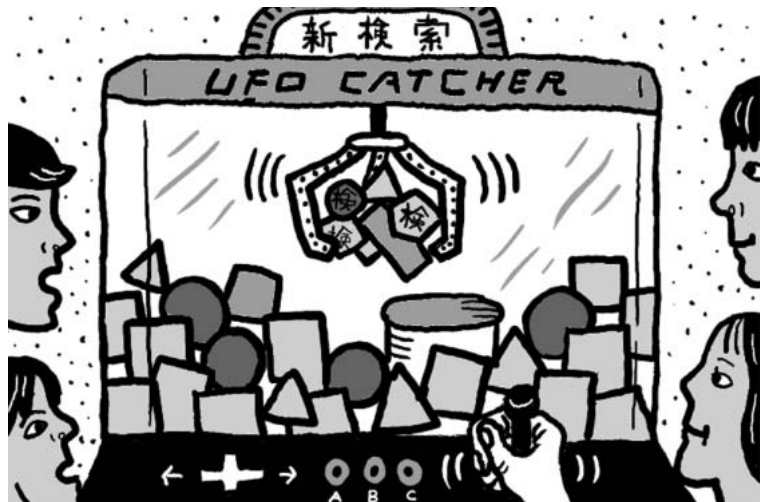


いまある不満を一気に解消

# 新世代の検索サイトを使いこなそう!

「goo」に代表されるロボット検索と「Yahoo! Japan」に代表されるカテゴリ検索との分類で、機能面における発展も一段落したかと思われた検索サイトだが、最近になって、新たな手法を使うすぐれた検索サイトが続々と登場している。そこで今回は、こうした新しいタイプの検索サイトのなかから、編集部が大注目しているものを紹介しよう。

水野隆一 リーン・コンサルティング・ネットワーク代表  
Illustr: Hasegawa Takako



## 検索サイトは新しい世代に突入

Yahoo!が登場して以来、検索サイトは急激にその数を増やしてきた。なかでも、AltaVista、Lycos、Excite、gooなどは、検索ヒット数やスピードなどで自慢の性能をアピールし、その存在を確固たるものにした。これらは、検索サイトの第一世代と呼べるだろう。

しかし、増え続ける検索サイトの乱立により、各サイトは他サイトとの差別化を図るため、さまざまな策を練りはじめた。その結果、より多くの情報を提供し、総合的な情報ポータルサイトへと移行していく。これが第二世代にあたる。だが、増え続ける情報量に検索機能が付いて行かず、さまざまな不具合が生じた。それを改善したのが第三世代だ。

さて、気になる第三世代の現在とは言えば、「高い技術力やユニーク性」を“ウリ”にするサイトが主流となっている。検索サイトの原点に立ちかえったとも言えるが、実際にはどんなサイトがあるのかが気になるところだ。

そこで今回は、“既存の検索サイトが抱えていた諸問題を、第三世代の検索サイトがどう解決しているのか？”というテーマのもと、最新の検索サイトを研究してみた。

まずは自分が抱えている不満が下記のどれにあたるかを見よう。それを解決してくれるサイトが、次から始まるページでキミを待っている。

このページへGO!

## 検索サイトのココが「不満」

- |                                      |                            |       |
|--------------------------------------|----------------------------|-------|
| ① ヒット数が多すぎて、必要なサイトを絞り込めない            | ➡ 欲しい情報を持つサイトだけヒットして欲しい    | P.217 |
| ② 検索サイトのスタッフが押し付けた情報ばかりがヒットする        | ➡ 一般ユーザーのサイト評価も見てみたい       | P.218 |
| ③ サイトごとにヒットする情報が違うので、いちいち、すべてを見るのは面倒 | ➡ すべての検索サイトを一度に検索したい       | P.219 |
| ④ 画像や音楽ファイルが見つげにくい                   | ➡ マルチメディアに対応した専用の検索サイトが欲しい | P.220 |
| ⑤ 適切な検索キーワードが思い付かない                  | ➡ 文章を使って検索したい              | P.221 |

ヒットの質を向上させよう!

# 重要度が高いものから順に表示する

独自の分析技術を持つ  
**GOOGLE**

www.google.co.jp

サイトの重要度を分析するユニークな仕組み、Linuxの採用による高速検索、10億ページを超える検索対象など、従来の検索サイトの常識を次々と覆している「Google」すでに、Netscape、Yahoo!、Biglobeといった大手サイトが「Google」のエンジンを採用しており、現在、注目度 No.1 の検索サイトと言っていいだろう。まずは、「Google」の仕組みに迫ってみる。

## リンクの数で重要度ははじき出す!

「Google」の特徴は、なんとと言っても、検索結果を並べる順番の決定方法にある。“多くのサイトから参照(リンク)されているサイトは重要。さらに重要なサイトから参照(リンク)されているサイトは、もっと重要”という発想のもと、検索対象サイトに張られているリンクの数によって、そのサイトの重要

度を計算し、もっとも度数の高いサイトから順に表示するという技術を持っている。さらに、同じドメインを持ったサイトはまとめて、重要度の高いページだけを表示するため、検索結果も見やすい。そのおかげで、必要な情報にすばやく到達できるわけだ。

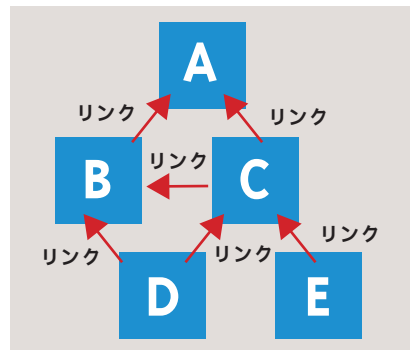
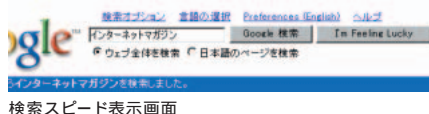


図1: Page Rank Systemの仕組み  
A、B、Cのいずれも2つのサイトからリンクされているが、B、Cの両方からリンクされているAがもっとも重要度が高く、CからBへの一方的リンクがあるため、Bのほうが重要度が高くなる。「I'm feeling Lucky」では、Aのサイトへ直接ジャンプする。また、企業名による検索の場合は、Aがその企業の公式サイトである場合が多い。

## 驚きの高速エンジン

Linuxサーバー上で稼働する『Google』の検索エンジンはかなり高速だ。10億ページ以上をサーチしているにもかかわらず、ほとんどの場合、1秒以内で結果を出す。



検索スピード表示画面



重要度が高いページへ直接ジャンプする(表示画面はインターネットマガジンの公式ホームページ)

## 検索ページへ直接ジャンプできる

検索キーワードを入力後、「I'm feeling Lucky」ボタンを押すと、重要度が一番高いサイトへ直接ジャンプする。それが目的のサイトである可能性が高いというわけだ。万が一、そうでなくても新たなサイトが見つければそれも「Lucky」だろう。



キーワードを入力(ここでは「インターネットマガジン」と入力)

## 一度行ったサイトはキャッシュを表示

せっかくヒットしたサイトもネットワークラブルや閉鎖などでアクセスできないことがある。そんなときは「キャッシュ」ボタンを使えばGoogle内に保管されているサイトのイメージをとりあえず見られるので、目的によっては十分満足を得られるだろう。

## リンク元を調べられる

キーワード入力欄に『link:(URL)』と入力すると、そのURLのサイトにリンクしているサイトを見つけられる。これを使えば、リンク元に対してサイトの変更通知やリンク方法に関する依頼メールを送ることもできて便利だ。



## Googleのココに注意

Googleはすばらしい検索サイトだが、万能ではない。「英語の大文字と小文字、半角と全角などを区別する」、「or検索、ブーリアン検索式が使えない」などの問題がある。そのため、検索のキーワードを慎重に選ぶことや、「関連サイト」機能などを有効に活用することなどの慣れが必要だろう。

ユーザー同士で情報交換!

# 2 他人の評価を利用して検索する

## ブックマークを共有する **BLINK.COM**

Jump [www.blink.co.jp](http://www.blink.co.jp)

「Blink.com」では、ウェブ上でブックマークを管理する際、「自分専用」「特定のグループ内での共有」「不特定多数へのブックマークの公開」と3つのパターンから管理方法を選べる。自分のマシン以外からでもブックマークを閲覧でき、職場や旅先においても使い慣れているサイトに簡単にアクセスできるのでとても便利。また、自分が公開したブックマークを見た人からもっとおもしろいサイトを教えてもらうといった楽しみがたただてできる。

「Blink.com」( ブリンク・ドット・コム) は、ウェブ上でブックマークを管理できるサービスだ。これを利用することで、どの端末からもブックマークを閲覧できるようになるだけでなく、他人のお気に入りサイトを検索したり、新たなサイトの推薦を受けたりもできる。



登録されているすべてのブックマークのなかからキーワードで検索して、自分のブックマークに登録できる。

フォルダーを公開しておく、各ブックマークに関連したテーマをもとにユーザー同士でディスカッションできる。

## ユーザー同士で助け合い **HOTTO LINK**

Jump [www.hottolink.com](http://www.hottolink.com)

「HottoLink」では、専用ソフトをブラウザ上に常駐させ、ツールバーから検索や人気投票を行う。これによりユーザーの好みは蓄積され、サイト検索に力を発揮する。サイトを探す方法には キーワードで検索する、自分と好み近い人が推薦するサイトを探す、自分と好み近い人に質問する、の3タイプがある。使えば使うほど、好みの判定精度が向上するため、いいサイトにめぐり合える確率が高くなる、“学習する”検索サイトだ。

ウェブ上の膨大なコンテンツをユーザー同士で選んだり、投票したりすることで、オススメのサイトを紹介し合うというボランティア形式の検索サイトが「HottoLink」だ。専用ソフトがあなたの好みを覚え、適切なアドバイスを送ってくれる。



hottolink : ユーザーが事前に登録した興味のあるテーマに関するサイトを紹介してくれる。

検索ウィンドウ : キーワード検索する時は、ここに入力。ちなみに、エンジンは「Google」を利用。

ホットボタン : お気に入りのサイトは、ここを押して投票する。

びったりバー : いま見ているサイトとあなたの好みのびたり度合いを表示。

ツール群 : 人気投票のランキングやあなたのメッセージを表示。

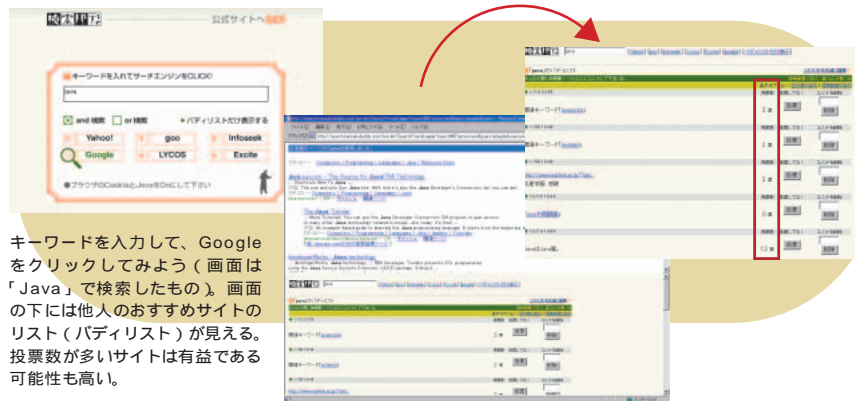
## 他人の評価コメントも付いてくる **検索バディ**

Jump [www.kensakubuddy.com](http://www.kensakubuddy.com)

「検索バディ」もユーザー同士で情報を活用できるタイプのユニークな検索サイトだ。各自が発見したおすすめサイトがコメント付きで登録されているため、すばやくサイトを発見できる。第三者による投票もあるので、サイトの人気度もわかる。

コミュニティーをベースとしているため、利用が増えるほど有効な情報は増える。探しているサイトについての質問もできるので、ほとんど検索仲間を増やしていこう。

検索サイトを使っていると多くの検索結果によって悩みが深くなることも多い。そんなときには、「検索バディ」でみんなの意見を聞いてみよう。きっと、おもしろいサイトが見つかるに違いない。



キーワードを入力して、Googleをクリックしてみよう(画面は「Java」で検索したもの)。画面の下には他人のおすすめサイトのリスト(バディリスト)が見える。投票数が多いサイトは有益である可能性も高い。



まとめて検索してみよう!

# 3 複数の検索サイトを同時に使える

韓国発のメタ検索サイト

## WAKANO

www.wakano.co.jp

「Wakano」は、複数の検索サイトで同時に検索を行うだけでなく、検索結果を適当な単位にまとめて表示してくれる「実時間自動分類」機能も持ち合わせている。たとえば、「キムチ」と入れると、「キムチ料理」「キムチの作り方」などの分類ができあがる。最初に「実時間自動分類」を見て、もっとも自分のニーズに合った分類からサイトを探すといいだろう。さもなければ、あまりの検索結果の多さから情報の洪水に流されてしまう。

躍進著しい韓国のインターネット業界から最強の検索サイトがやってきた。メタ検索サイト「Wakano」は、世界の主要検索サイトを同時にすばやく検索できるすぐれものだ。とにかく多くの検索結果が欲しいときには最適だろう。



キーワードを入れて検索すると、各検索サイトへのアクセス状況がチャートで表示される(画面は「キムチ」で検索したもの)。使う検索サイトは、「Power Search」で選択できる。

検索結果は、自動分類結果に基づいて分類される。ただし、一定時間、検索サイトからのレスポンスがないと検索を打ち切るため、時間帯によって検索結果が異なることもある。

見やすい結果表示にこだわるなら

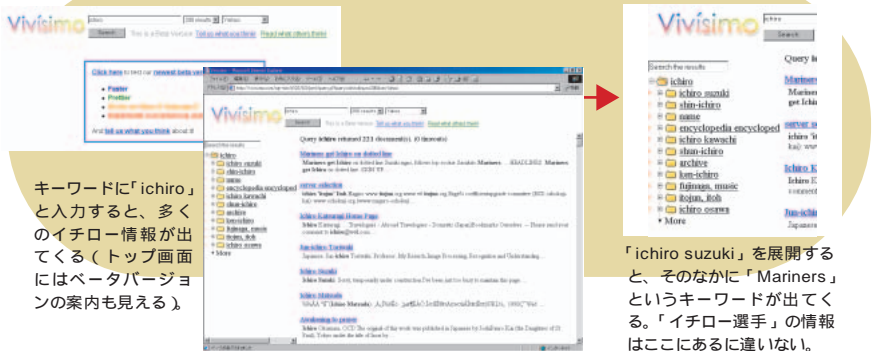
## VIVISIMO

vivisimo.com

「Visisimo」の特徴は、なんとと言っても、検索結果の表示方法だ。「Wakano」同様に検索結果をカテゴリーごとに分類するが、それがエクスプローラ風に階層構造で表示される。

現在のところ、4つの検索サイトしか検索できないが、開発中のベータバージョンでは、7つの検索サイトへアクセスができるようになる予定だ。スピードも速く使いやすいが、まだ日本語に対応していないのが残念だ。

メタ検索サイトは多くの検索結果が得られるため、結果の表示が見にくくなりやすい。その点、「Vivisimo」は検索結果をエクスプローラ風に分類してくれるので、たいへん見やすい。



キーワードに「ichiro」と入力すると、多くのイチロー情報が出てくる(トップ画面にはベータバージョンの案内も見える)。

「ichiro suzuki」を展開すると、そのなかに「Mariners」というキーワードが出てくる。「イチロー選手」の情報はここにあるに違いない。

Newジャンル

わからなければ「専門家」に聞け!

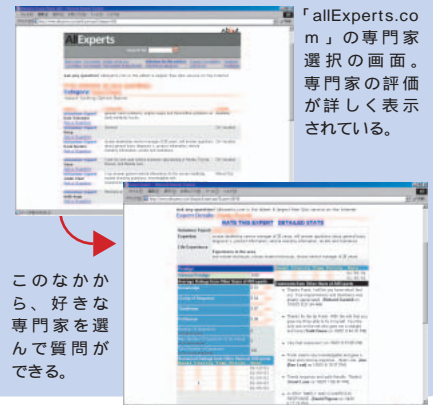
## 「アスクエキスパート」を利用しよう!

検索サイトの本来の目的は、インターネットを使って情報を入手することだ。そのために、その情報が書かれているサイトを「検索」というわけだ。

しかし、必要な情報を入手するためには、それを知っている「専門家(エキスパート)」に聞くほうが早い場合も多い。このような「専門家」に直接質問をして答えてもらうようなタイプのサイトが、いま注目を集め始めている。このようなカテゴリーは「アスクエキ

スパート」と呼ばれ、代表例として allExperts.com、PointAsk.com、exp.com などが有名である。日本でも「ひとびと.net」が、この分野に当てはまる。

検索サイトでは「ウェブサイト」を検索するが、「アスクエキスパート」では「専門家」を検索する。簡単に調べれば済む内容であれば検索サイトで十分だろうが、調べてもはっきりしないことがあれば、一度「専門家」に相談してはどうだろうか?



このなかから、好きな専門家を選んで質問ができる。

「allExperts.com」の専門家選択の画面。専門家の評価が詳しく表示されている。

検索できるのはテキストだけじゃない!

# 4 画像や音声ファイルも検索できる

## 音楽のストリームなら STREAMSEARCH

Jump www.streamsearch.com

従来のマルチメディア検索サイトは画像データが中心だったが、Napsterの登場以来、音声ファイルの検索がさかんになってきている。その多くはMP3ファイルの検索が中心だが、ここで紹介する「StreamSearch」は、RealAudioやQuicktimeMovieも検索できる。

マルチメディアの場合、通常のウェブ検索とは異なり、キーワード検索だけでは思うように目指すファイルが見つからないことも多い。探す側が明確な目的を持っていなかったり、ファイル側に適切な解説が付いていなかったりするためである。そのためマルチメディア検索サイトではカテゴリー分類が重要であるが、「streamsearch」の場合、「映画」「ニュース」「スポーツ」などのカテゴリーも充実している。

高速インターネットの実用化により、ようやく本格的なマルチメディア時代がやってきた。それにともない、マルチメディア検索サイトも充実してきた。まずは音楽やムービーファイルの検索サイト「StreamSearch」を紹介しよう。



トップページには、いま人気のファイルのイメージが並び、なかにはブッシュ大統領の顔も見える。



検索してみると、再生時間やストリーミングに必要な回線速度などが表示される。また、ファイルはダウンロードもできる(画面は「Lenny Kravitz」で検索したもの)。

## すばい検索なら FAST SEARCH

Jump www.alltheweb.com

「Fast Search」は、検索スピードが速いのが特徴だ。検索結果を出すのに1秒以上かかるサイトがまだまだ多いなかで、通常のウェブ検索であれば、ほとんど1秒かかっていない(サーバー内での検索速度)。この検索スピードは、マルチメディア検索にもいかに発揮される。特にイメージファイルを中心とした検索の場合、検索結果を表示するために時間が費やされるため、検索時間の長さは致命的になる場合がある。その点、「Fast Search」ならスピードを気にすることなく、何ページでもめくっていきける。なお、「Fast Search」は日本語での検索に対応しているが、マルチメディア検索の場合には日本語ではほとんどヒットしない。

伝統的な検索サイトもマルチメディア検索に対応してきているが、その代表的な例が「Fast Search」である。その名のとおり、マルチメディア検索サイトのなかでも、ひととき検索速度の速さが目立つ。



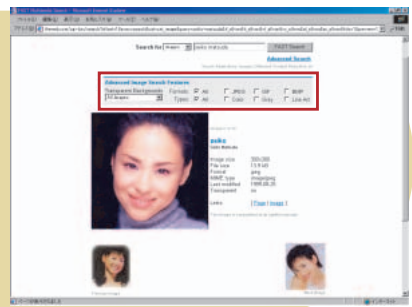
ウェブ検索の場合には、「Customize」のページで言語を日本語に設定しておこう。マルチメディア検索やMP3検索は、最下段から選択する。



検索結果は、ファイル種別ごとに表示される。さらに見たい場合には、「more images」などを選択。



キーワードは英語で入れよう(画面は「seiko matsuda」で検索したもの)。また、イメージファイルだけ、ビデオファイルだけといった検索もできる。



ファイルを選択すると、そのファイルの詳細な情報が表示される。また、ファイルの種類を限定したり、白黒写真だけを検索したりするなどの「advanced search」機能も利用できる。



ひとことで説明できないときでも大丈夫

# 5 日常会話で検索できるサイト

自然な日本語で検索  
**GOTCHA**

www.mycom.co.jp

たとえば、「都内にあるパン屋のサイト」のように、探したいサイトをひとことで言い表せない、ということも多い。そんなときは、「Gotcha」に普通の日本語で聞いてみよう。きっと、あなたの意図を理解し、近い内容のサイトを教えてくれるだろう。さらに、発見されたサイトの説明文で検索すると、また別のサイトを発見できる。

こんなサイトだから、「Gotcha」に企業の公式サイトなどを聞いてはいけな。あくまで、フィーリングで語りかける検索サイトだ。

「わからないことを人に聞くように、検索サイトでも調べられたら……」、そんな気になることはないだろうか？ 自然言語による検索サイトは、そんな普通の言葉での質問にも答えてくれる人間っぽいサイトだ。なかでも日本語が使える検索サイトとして「Gotcha」を紹介しよう。



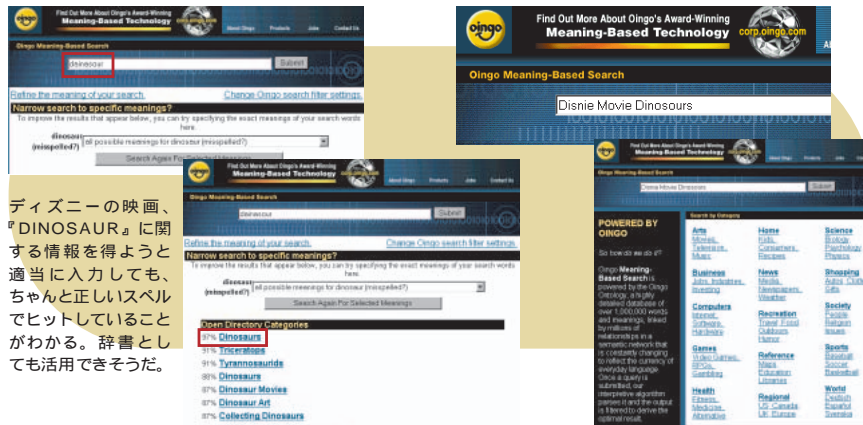
「雪を利用したスポーツはどんなものがある？」という質問に対し、小学生の雪遊びや雪祭りに関する情報がヒットした。「Gotcha」には、ここから絞り込むという概念はない、目的サイトが発見されるまで何度も繰り返して検索してほしい。

英語による自然語検索なら  
**OINGO.COM**

www.oingo.com

「Oingo.com」は、英語版の自然言語による検索サイトだ。英語だからと言って敬遠することはない。かならずしも文章になっていなくてもいいので、思いつく単語を並べるだけでもOKだ。少々スペルミスだったら、直して検索してくれる。自然言語と言えども、一語でも入力すれば、なにかしら返してくれるので、普通の検索サイトと同様に使って便利だ。検索結果は、ウェブサイトそのもののほか、「Open Directory」のカテゴリーも表示してくれるので、そこからたどることもできる。

自然言語の処理なら、入力された文章の単語分解が容易であり、意味も取りやすい英語サイトほうが得意である。「Oingo.com」は、英語が持つ特性を活かし、普通の英文による検索ができる。



ディズニーの映画、『DINOSAUR』に関する情報を得ようと適当に入力しても、ちゃんと正しいスペルでヒットしていることがわかる。辞書としても活用できそうだ。

## いま、検索サイト“ビジネス”が熱い！

冒頭でも述べた、検索サイトにおける第一世代から第二世代への移行は、サイトの収益構造に由来している。つまり、広告収入に依存するビジネスモデルでは、検索エンジンの技術的優位性よりも、集客が見込めるコンテンツを集めるほうが、収益上有利だったのだ。

ところが、今回紹介した検索サイトは、

第二世代とは異なるビジネス構造を持つ。たとえばGoogleは、基本的に広告を持たない代わりに、ほかの第二世代の検索サイトに対してその技術を提供することで収益を得ようとしている。ほかのサイトも、広告収入型のビジネスモデルであっても、その差別化ポイントは、高い技術力やユニーク性である。

さて、今回は新しいタイプの検索サイトを紹介したが、実は、このなかでは紹介しきれなかったものとして、特定分野に特化した専門検索サイトというものもある。このように、検索サイトは日々研究を重ねて進歩、変革を繰り返している。われわれ自身も検索サイトを使い分ける“技術”を身に着ける必要がありそうだ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)